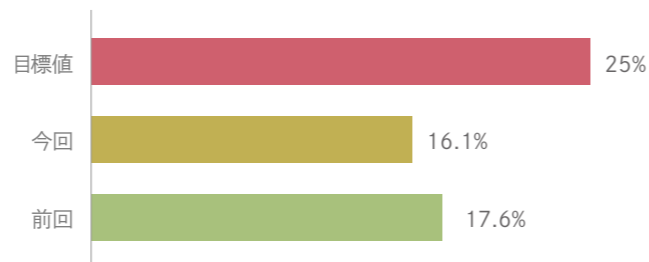


市民参画協働施策について(成果目標比較)

『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』に定められた、平成31年度末までに達成すべき成果目標(指標)と今回調査の結果を比較し、市民参画協働施策に対する市民の意識や行動について分析を行いました。

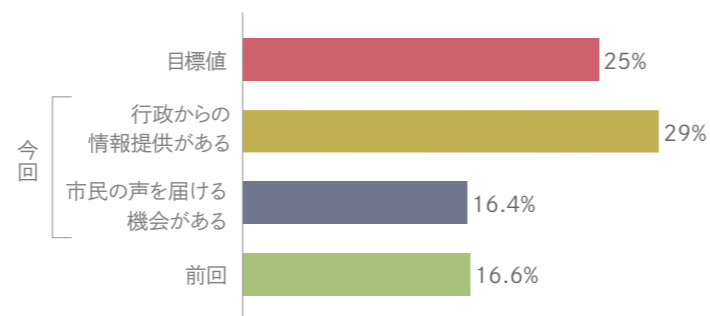
<そだつ>に関する指標について

「市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている」と考える割合は、前回調査・成果目標に対して低い数値となっているが、「わからない」「どちらでもない」と答えた割合は少なくなっており、活動の参加に対する意識は高まってきていると思われる。(問26)



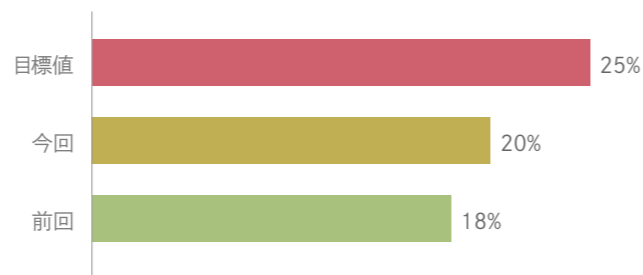
<つながる>に関する指標について

「市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある」と考える割合は、その要素を2つに分けて質問を実施(行政からの情報提供の充足度、市民の声を届ける機会の充足度)。前回調査・成果目標に対して、行政からの情報提供の充足度において多少の改善がみられた。しかし、行政に相談できる機会を求める声もみられることから、引き続き行政と市民とが協力して地域の課題解決に取り組む機会が求められている。(問35,37)



<すすむ>に関する指標について

パブリックコメント制度を知っている割合は、前回調査よりも上回ってはいるが、成果目標に対して低い数値となっている。以前より制度の認知度に改善はみられるものの、引き続きの理解・周知を進める必要があると思われる。(問36-2)



発行日 | 2019年3月

発行者 | 芦屋市企画部市民参画課

住所 〒659-8501 芦屋市精道町7番6号

TEL 0797-38-2007

FAX 0797-38-2004

E-mail : shiminsankaku@city.ashiya.lg.jp

平成31年

芦屋市

市民参画協働推進に関する市民意識調査

調査結果報告書 概要版

芦屋市では、「市民参画・協働による住みよいまちづくり」を目指すために、『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』(平成26年)を定めています。すべての市民が市や地域をより良くする過程に関わることができる手段として、「考える」「情報を通わせる」「仕組みや制度を作る」「事業を行う」などの「まちづくり」に取り組む機会を持つことができるよう、情報発信や環境整備について「そだつ」「つながる」「すすむ」「ささえる」という指標を掲げ、市全体として市民参画協働の取組みを実施してきました。

そして今回、その取組みの現状や成果を把握しさらなる推進を図るため、市民が自分たちのまちに愛着を持ち、積極的に地域へ関わっていくために「住んでいる地域に対する意識」「地域の人とのつながり」「地域での活動との関わり」の3つを重要な要素と設定し、市民参画協働推進に関する市民の意識調査を行いました。

本概要版では、今回の調査結果の要約と、『第2次芦屋市市民参画協働推進計画』で設定した目標値の達成状況を記載するとともに、そこから見えてきた今後必要と思われる取組みの方向性を2つのキーワード「人、活動、情報をつなげるための仕組みづくり」「新しいまちづくり人材の発掘、育成」としてまとめています。

※「市民参画」とは、市民が市政に参加する意思を反映させることを目的として市の施策の企画・実施・評価の過程に関わることをいい、「協働」とは、市民や市がそれぞれの役割や責務を自覚しながら互いに尊重・補完・協力をすることを意味している。

※若者の定義については、日本の若者向けの政策(『子供・若者育成支援推進大綱』(平成28年、内閣府)の対象年齢などを参考に、10~30歳代としている。

※文中のポイントの数字は特記のない限り、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。

調査概要

調査目的

芦屋市民の市民参画や協働についての意識や行動についての調査・分析を行い、『第3次芦屋市市民参画協働推進計画』策定の基となる情報を得ることを目的とする。

調査内容

計41問(回答者属性、住んでいる地域に対する意識、地域の人とのつながり、地域での活動との関わり、市民参画協働施策に対する意識・行動)について調査。

対象・対象者数 芦屋市内の18歳以上の男女2000名

方法 郵送法による調査票・
ウェブアンケートフォーム(調査票記載QRコードより)で回答

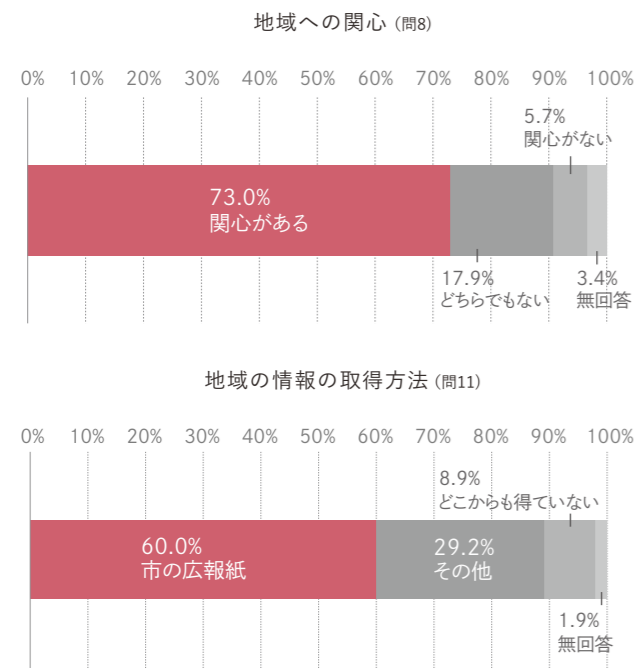
期間 22日間(2019年2月22日~3月15日)

有効回答数(回答率) 889名(44.45%)

調査結果要約

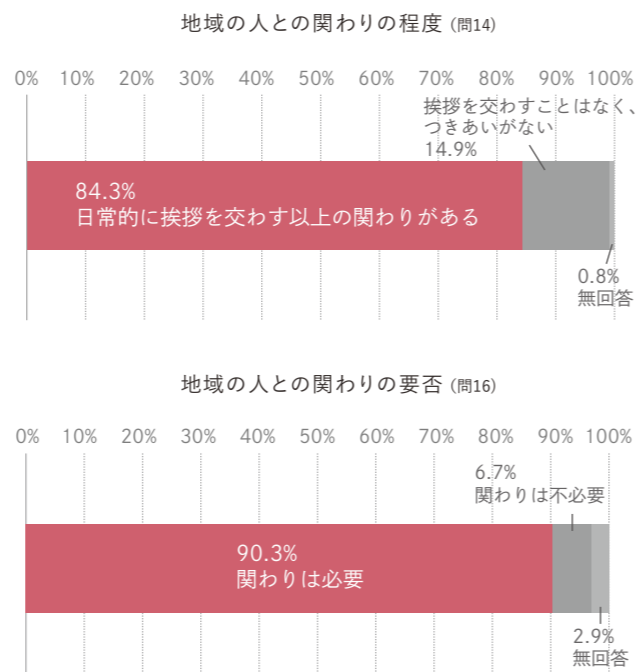
1. 「お住まいの地域に対する意識」について

- ・約90%の人が住み心地を肯定的にとらえており、「交通の便」「景観・環境」「買い物の利便性」が上位3つの理由となっている。(問6,7)
- ・70%を超える人が地域に対して関心を持っており、年代が上がるほど多くなる傾向がある。関心を持つ動機には「住み心地が良い」「今後も住み続けたい」が特に多くみられる一方、関心がない理由としては「地域の人との関わり」「地域の活動等への参加」が影響している。(問8,9)
- ・地域の情報は50%以上の人が市の広報紙から入手しており、「どこからも得ていない」という人は、性別では男性、年齢では20歳代で最も多い。(問11)
- ・生活の中で気になることは、防犯、環境衛生、交通安全の割合が高い。(問12)
- ・情報提供や地域に対する住民の関心を高めることを求める声が多い。(問13)



2. 「地域の人とのつながり」について

- ・84.3%の人が、地域の人と日常的に挨拶を交わす以上の関わりがあり、地域の人とお互いに気持ちよく過ごしたい、いざという時に助け合いたい、という思いを持つ人が多い。一方、時間やきっかけがないことや、特に理由なく地域の人との関わりが無いという人もみられる。(問14,15)
- ・90%以上の人が、地域の人とお互いに気持ちよく過ごしたい、いざという時に助け合いたいという思いから、地域の人との関わりを必要だと感じている。一方、きっかけがないため不要、という声もある。(問16,17)



今後必要なこと

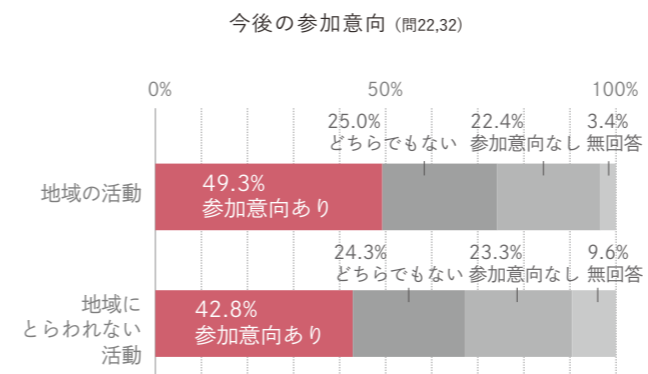
関わりや関わり方に幅を持たせることや、災害や病気の際に地域の人とのつながりがセーフティネットとして機能することが必要。

3. 「地域での活動との関わり」について

- ・50%以上の人が活動に参加しておらず、活動団体への所属率も低い。(問18,24,27)
- ・活動の情報は友人・知人から得る人が多い。(問29)
- ・約40～50%の人が、今後、自身の興味に基づく活動へは参加意向がある。(問22,23,32,33)
- ・30～40%の人が地域で活動を行う機会・場所や、活動の参加者不足を感じている。(問25,26)

表 | 活動への参加/不参加に影響する要因 (問20,21,30,31)

	参加動機	不参加動機
活動への興味の有無	○	○
参加する仲間の有無	○	○
活動に関する情報の有無	×	○
時間的な負担の有無	×	○
体力面の負担の有無	○	×
人のつながりを得られるかどうか	○	×

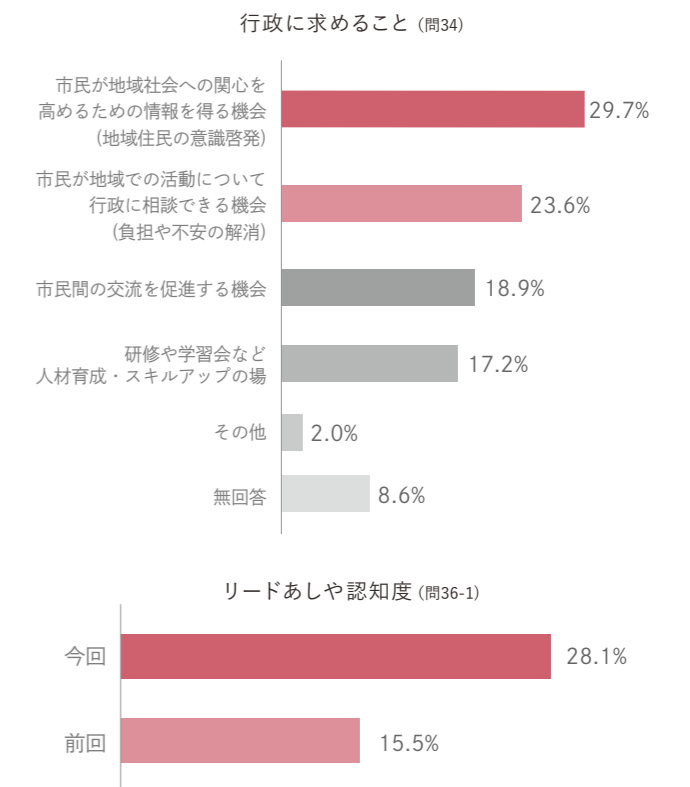


今後必要なこと

活動に参加しやすい環境(多様な興味に応えることができ、強制力の無いゆるやかな活動環境と、その情報提供)を整備しつつ、人が人を呼ぶような、活動情報の発信の工夫が必要。

4. 「市民参画協働施策に対する意識・行動」について

- ・市民の声を市政に届ける機会を不十分に感じている市民が多く、情報を得る機会や相談できる機会を行政に求める声が多い。(問34,35,37)
- ・70%の人がリードあしやについて知らないと回答しており、70%以上の人パブリックコメント制度を知らないと回答している。(問36)
- ・60%以上の人、多様な地域課題の解決や市民ニーズに対応するためなどの理由から、市民参画協働を必要に感じている。(問38,39)



今後必要なこと

行政から情報提供だけでなく、地域内の情報共有を図る活動、情報そのものに興味を持つきっかけづくりが必要。

今後、『第3次芦屋市市民参画協働推進計画』を考える上で必要と思われる、市民参画協働の取組みの方向性は

「人、活動、情報をつなげるための仕組みづくり」 「新しいまちづくり人材の発掘、育成」